毛呂山歴史散歩

文化財シリーズ
200回記念

中世の歴史薫る町　毛呂山

鎌倉街道とその歴史

毛呂山町の歴史的な特徴にはどんなものがあるかよくきかれます。そのようなときは、町内から多くの縄文時代の遺跡が見つかっていることや越辺川沿いに古墳群があること、そして出雲伊波比神社のやぶさめ祭りなど、様ざまな文化財があげられますが、中世（鎌倉時代～戦国時代）の史跡が多く残されていることも大変貴重で、その代表的なものが「鎌倉街道」ですと答えています。

木漏れ日の鎌倉街道

鎌倉街道の成立

鎌倉街道は、鎌倉から関東諸国へ通じる主要道で、鎌倉幕府が御家人たちを鎌倉へ参集させる軍事的かつ政治的道路として整備したものです。毛呂山町を通る鎌倉街道は群馬県藤岡方面に向う道で、当時は「上道」と呼ばれていました。

街道沿いに宿があった

鎌倉街道の要所には宿が存在していましたが、毛呂山にも「苦林宿」があったことがわかっています。当時は河川に橋がかけられていなかったため、川を越えるのに何日も足止めされることもあり、そのため越辺川の渡河地点に「苦林宿」が成立（現在の大類グラウンド・県立毛呂山特別支援学校辺り）し、通行する人びとの宿泊など、需要に応えていたと思われます。そこでは多くの人が集まることから物品の流通も盛んだったようで、遠く愛知県常滑産の陶器なども発掘されました。

堂山下遺跡から出土した常滑産の大甕

合戦の地となった苦林野

現在の大類グラウンドの北東部一帯で南北朝時代の貞治2年（1363）、下野の豪族芳賀禅可と足利基氏の軍勢が合戦を繰り広げました。南北朝時代の戦史物語『太平記』でも語られていますが、芳賀氏は栃木県真岡市を中心に芳賀郡域を支配していた豪族で、同じ下野出身の室町幕府初代将軍足利尊氏に付き従いました。しかし、2代将軍義詮の弟である基氏が突然、尊氏の反勢力であった上杉憲顕を登用し、芳賀氏の官職である越後国守護職までをも与えてしまいます。そのため芳賀氏は、鎌倉へ向う憲顕の襲撃をたくらみましたが、これを知った基氏が芳賀氏討伐のため鎌倉から大軍を率いて北上し、苦林野で合戦となったのです。結局、軍勢の少ない芳賀軍が破れ、宇都宮へ退いていきました。今はその様子をうかがい知ることはできませんが、大類地区の十社神社はこのとき戦死した金井新左衛門ほか9士の霊が祭神と伝えられています。また、江戸時代の文化10年（1813）にはこの合戦の戦死者を供養する千手観音の石碑も建てられています。500年もの間、激しい合戦について語り継がれていたことがうかがわれます。

苦林野合戦の後にも永享12年（1440）、結城合戦の際には上杉性順が、文明9年（1477）、河越城攻略のため矢野兵庫助らが苦林宿に陣を張るなど毛呂山の鎌倉街道周辺は合戦の舞台とされてきました。

歴史ある場所は何かその面影を残していますが、毛呂山ほど鎌倉街道が良好に残されているところはありません。この貴重な歴史ある遺産を町の宝としてこれからも守っていきたいものです。

文化10年（1813）の供養塔